

マーケットレポート

# 12月景気ウォッチャー調査は2カ月連続で低下

～先行きの景況感は改善の見込み～

## ◆中国による渡航自粛要請の影響は限定的

13日発表の12月景気ウォッチャー調査では、3カ月前と比較した景気の現状判断指数(DI、季節調整値)は48.6(前月:48.7)と、2カ月連続で前月から低下し、市場予想(48.7)も小幅に下回りました。一方、先行き判断DIは50.5(同50.3)で、2カ月ぶりに上昇し、市場予想の50.2を上回りました。3カ月連続で、景気が「良くなる」、「やや良くなる」と回答した割合が「やや悪くなる」、「悪くなる」より高く、DIが境目となる50を上回りました。2～3カ月先の景況感は改善が見込まれている姿です。この結果を受けて、内閣府は基調判断を「景気は、持ち直している。先行きについては、価格上昇の影響を懸念しつつも、持ち直しが続くと思われる」と、前月の判断を維持しました。

現状判断DIは、家計動向関連が、小売関連の悪化の影響により前月から小幅に低下しました。一方、飲食、サービス、住宅関連は上昇しました。特にサービスについては6カ月連続で上昇、3カ月連続で50を上回り、良好な景況感が示されました。前月懸念された中国による渡航自粛要請のインバウンド需要への影響については、中国からの旅行客の減少は見られるものの、中国以外からの旅行客が堅調との指摘もあり、今のところ、強い下押し要因にはなっていない模様です。

企業動向関連は、製造業が上昇しました。一方、非製造業は5カ月ぶりの低下となりましたが、引き続き、境目となる50を上回りました。製造業では、食料品価格の高止まりによる販売量の減少が引き続き指摘される一方、自動車関連などで受注が増加しているとの声もあるようです。

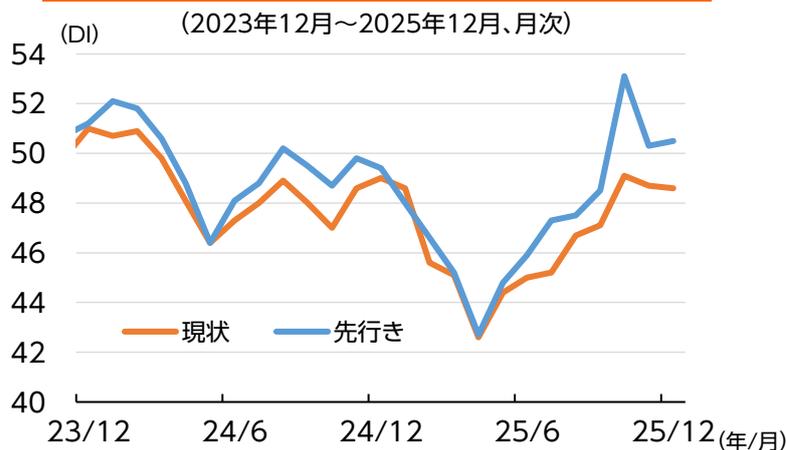
先行き判断DIは、家計動向関連は低下した一方、企業動向関連、雇用関連では前月から上昇しました。政府の経済対策への期待が引き続き見られています。また、堅調なAI(人工知能)関連需要が継続するとの見方も示されています。一方で、中国の渡航自粛要請の影響を受ける春節の期間のインバウンド需要の減少は懸念されています。

## ◆今後の見通し

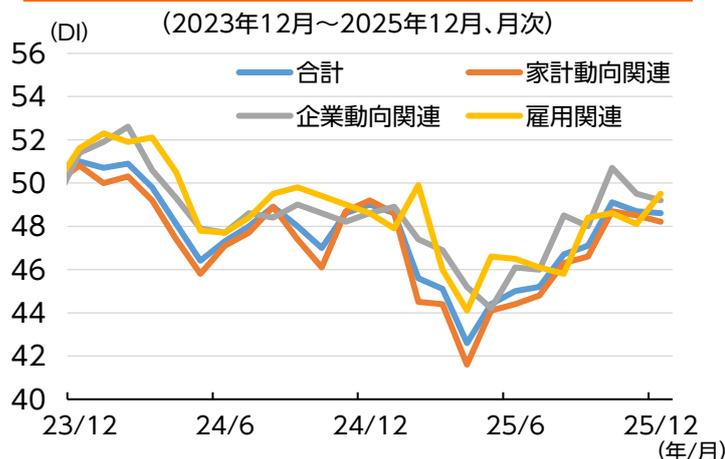
12月調査の結果は、現状判断は悪化、先行き判断は改善を示しましたが、変化幅はいずれも小幅にとどまっており、総じて、街角景気は良好な状況を維持しているとみられます。政府による経済政策への期待も、街角景気の支えになっているようです。

こうしたなか、足元では、衆議院解散の可能性が急速に高まり、金融市場にも大きな動きが見られています。今後は、こうした政局の動きやそれを受けた株価や為替の動きなどによる街角景気への影響も注目されます。

現状判断DI・先行き判断DI推移



現状判断分野別DI推移



(出所) Bloomberg、内閣府のデータを基に三井住友トラスト・アセットマネジメント作成

## 【投資に関する留意事項】

### ◎投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や公社債など値動きのある有価証券等を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価値が変動します。したがってお客様のご投資された金額を下回ることもあります。

また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

### ◎投資信託に係る費用について

投資信託にご投資いただくお客様には以下の費用をご負担いただきます。

1. 購入時に直接ご負担いただく費用 (1) 購入時手数料 上限 3.85%(税込) (2) 信託財産留保額 上限 0.1%
2. 換金時に直接ご負担いただく費用 (1) 信託財産留保額 上限 0.5%
3. 保有期間中に間接的にご負担いただく費用 (1) 信託報酬 上限年率 2.09%(税込、概算)

※ファンド・オブ・ファンズ形式の場合は、一部を除き、投資信託が投資対象とする投資信託証券の信託報酬等が別途かかります。

※一部の投資信託および投資信託証券には運用実績等に基づき計算される成功報酬額が別途かかる場合があります。この場合、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合がありますが、成功報酬額は運用実績等により変動するため、上限額等を事前に表示することができません。

4. その他費用 (1) 上記以外に投資信託の保有期間等に応じてご負担いただく費用(\*)があります。これらの費用は、運用状況等により変動するため、料率、上限額等を事前に表示することができません。

(\*) 監査費用、有価証券の売買・保管、信託事務に係る諸費用、投資信託証券の解約に伴う信託財産留保額、および投資信託が実質的に投資対象とする仕組み債券の価格に反映される費用等

上記の費用の合計額については、お客様が投資信託を保有される期間等に応じて異なりますので、上限額等を事前に表示することができません。

詳細は投資信託説明書(交付目論見書)、契約締結前交付書面等でご確認ください。

### 《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、三井住友トラスト・アセットマネジメントが運用するすべての公募投資信託のうち、徴収する夫々の費用における最高の料率(作成日現在)を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、夫々の投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をご覧ください。

### ◆設定・運用は



商 号 三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第347号  
加入協会 一般社団法人投資信託協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会

### 【ご留意事項】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。